

健康維持と生活習慣病

本研究所は超高齢社会となった日本の諸問題の解決に向け「健康寿命の延伸」をテーマに「食」・「運動」・「住環境」などの研究を推進しています。



ライフイノベーション
研究所長
矢野 友啓

我が国の平均寿命は2016年には男性80.98歳、女性87.41歳、健康寿命も同年には男性72.14歳、女性74.79歳と年々更新を続けており、平均寿命と健康寿命との差は男性8.84歳、女性12.62歳となっています。その結果、がんや認知症の増加、介護給付金や医療費の増大等を引き起こしており、健康増進と生活習慣病等の慢性疾患予防や介護予防等により健康寿命の延伸を図り、平均寿命と健康寿命との差を短縮させ、個人の生活の質を上昇させることが今後の日本社会にとって最重要です。東洋大学ライフイノベーション研究所は2015年4月に設立され、超高齢社会に突入した我が国が直面している課題の解決に向けて、食環境・住環境・運動を主体に健康寿命延伸に寄与する研究を行っています。

program

13:20-13:25 ● 開会の挨拶

13:25-14:25 ● 特別講演

「アミノ酸シグナルを利用して 高品質食資源を開発する」

高橋伸一郎（東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授）

14:25-14:55 ● 一般講演

「健康維持増進に対する 時間栄養学の可能性」

吉崎 貴大（本学 食環境科学部 准教授）

15:05-15:20 ● 研究所の活動について

矢野 友啓（本学 ライフイノベーション研究所長）

15:20-15:25 ● 挨拶

宮越 雄一（本学 ライフイノベーション研究所副所長）

15:45-17:00 ● 懇親会（食堂棟）

問い合わせ／申し込み方法

参加無料

参加ご希望の方は、住所・氏名・電話番号を明記の上、FAX
またはメール、または下記 QR コードからお申し込みください。

東洋大学 板倉事務部板倉事務課

TEL: 0276-82-9105

FAX: 0276-82-9801

MAIL: mllife@toyo.jp

URL: www.toyo.ac.jp/site/lii



11/7 木

13:20 ▶▶ 15:30

東洋大学 板倉キャンパス 1101教室



東洋大学

「哲学する心」の
軌跡とこれから

The Foundation and Future of Philosophical Mind
～井上円了没後 100 周年～

THE CENTENARY OF THE DEATH OF ENRYO INOUE

健康維持と生活習慣病



高橋 伸一郎

東京大学大学院
農学生命科学研究科 教授

アミノ酸シグナルを利用して高品質食資源を開発する —栄養状態に応答した物質代謝調節のダイナミクス—

動物のタンパク質栄養状態の悪化が、成長遅滞や脂肪肝などを誘導する分子機構は最近まで明らかにされていませんでした。しかし近年、タンパク質の構成要素である個々のアミノ酸やその組み合わせからなる情報が、①インスリンやこれに構造が類似したインスリン様成長因子 (IGF) I の産生・作用などを制御し、これを介して間接的に物質代謝を調節する、②インスリン様活性の制御を介さず、直接的に物質代謝を調節するという二つの機構により、成長遅滞や脂肪あすと、鶏の肝臓の脂肪含量を増加させる飼料、ブタの筋肉の脂肪交雑を引き起こす飼料、養殖魚の筋肉脂質含量を制御する飼料などが調製できることもわかってきました。飼料中・食事のアミノ酸量の調節により、臓器特異的に物質代謝が制御できる可能性が示されたことから、このような研究は、高品質食資源の開発や高齢化社会に問題となっている成人病の治療法の開発などに役立つと期待しています。

1987年東京大学大学院農学系研究科農芸化学専門課程博士課程修了、農学博士(東京大学)の学位授与、1987年～1988年東京農工大学農学部農芸化学科生物化学講座助手、1988年～1990年アメリカ合衆国ノースカロライナ大学医学部小児内分泌研究室客員研究員、1990年～1994年東京大学農学部農芸化学科栄養化学研究室助教授、1994年～2007年東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻動物細胞制御学研究室助教授、2007年～2018年同准教授、2018年～同教授、この間2001年～2003年文部科学省研究振興局学術調査官



吉崎 貴大

本学
食環境科学部 准教授

健康維持増進に対する時間栄養学の可能性

社会の24時間化に伴い、深夜勤務を伴う交代制勤務者や活動時間帯の指向性が夜型の者が増加している。夜間に活動することは人工照明による夜間の光曝露量を増加させ、中枢の体内時計の位相後退を促す可能性が明らかにされている。さらに、夜勤に従事する者に限らずとも、普段の生活において体内時計と睡眠・覚醒リズムの位相との間にずれ(社会的ジェットラグ)を生じやすい集団も存在する。これらの要因は、食事内容や食事のタイミング、さらには健康に悪影響をもたらす可能性があると考えられている。

本講演では、24時間型社会における概日リズムの乱れと食事内容および健康との関わり、さらには食事の摂取タイミングが体内時計の位相に影響する可能性の2点について、疫学的な知見を中心に紹介する。

2012年4月～2014年3月 日本学術振興会特別研究員(DC2)、2014年3月 東京農業大学大学院農学研究科食品栄養学専攻博士 後期課程修了、博士(食品栄養学)の学位授与。2014年4月～2017年3月 東洋大学食環境科学部・助教、2015年4月より国立スポーツ科学センター栄養グループ・委嘱スタッフを兼任する。2017年4月より東洋大学食環境科学部食環境科学科・講師、2018年4月 東京都健康長寿医療センター研究所・協力研究員、2018年4月 東洋大学食環境科学部食環境科学科・准教授に就任する。

東洋大学 板倉キャンパス 交通案内



東武日光線「板倉東洋大前」駅 西口下車 徒歩10分

参考ルートと所要時間

- 東武日光線 「北千住」駅 → 「板倉東洋大前」駅 急行60分
- JR宇都宮線 「上野」駅 → 「栗橋」駅 68分
- 東武日光線 「栗橋」駅 → 「板倉東洋大前」駅 68分
- JR埼京線 「池袋」駅 → 「大宮」駅 63分
- JR東北線 「大宮」駅 → 「栗橋」駅 63分
- 東武日光線 「栗橋」駅 → 「板倉東洋大前」駅 63分

東洋大学
ライフイノベーション研究所
〒374-0193
群馬県邑楽郡板倉町泉野 1-1-1
<https://www.toyo.ac.jp/ja-JP>